

# 個別最適な学びを実現するためのGIGAスクール構想の推進

令和3年度補正予算額(案)

201億円



文部科学省

- **個別最適な学びを実現するため**、GIGAスクール構想を前倒し学習ツールの一つとして**1人1台端末等を整備**してきたが、**ネットワークや指導者端末など残された課題が存在**
- 必要な措置を講じた上で、構想を**次なるSTEPに進めていく**



## STEP 1 これまでのGIGAスクール構想の取組

1人1台端末と学校ネットワーク環境等を急ピッチで整備し、令和3年度から本格運用が開始。(合計4,819億円) ⇒ **運用を開始すると、様々な課題も顕在化。**

課題① ✓運用に地域差がある ✓ネットワーク回線が遅い ✓教師に設定等の負担が集中

課題② ✓指導者端末などが未整備・古い ✓遠隔授業実施環境が不十分

課題③ ✓デジタル教科書の導入が不十分

## STEP 2 支援の加速によるGIGAの実装

**(支援① 学校の運用支援、教師のサポート)【令和3年度補正予算額(案) 52億円】**

・学校への支援をワンストップで担う「GIGAスクール運営支援センター」を各都道府県等に緊急整備、全国一斉に学校ネットワークの点検・応急対応の実施が必要

**(支援② 教室環境の改善)【令和3年度補正予算額(案) 84億円】**

・子供だけでなく教師にも1人1台端末を整備するとともに、高性能なカメラやマイク、大型提示装置など遠隔授業実施環境の高度化の支援が必要。

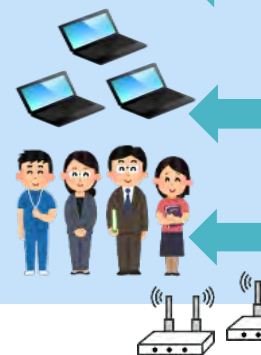
**(支援③ デジタル教科書の活用や配信基盤の整備)【令和3年度補正予算額(案) 65億円】**

・全ての小中学校等でデジタル教科書の活用を可能にするとともに、デジタル教科書や連携するデジタル教材等がよりスムーズに活用できるよう、実際の使用状況を踏まえた課題解決や配信方法等の検証の実施が必要

**(※教師の指導力)**

・教職員支援機構における研修動画などを活用したオンライン研修の推進 ・GIGA StuDX推進チームによる指導方法に関するきめ細かな支援と発信  
・中央教育審議会で教師の養成・採用・研修の在り方について検討中

省庁横断のタスクフォースなどにより  
関係省庁と緊密に連携して課題に対応



## STEP 3 GIGAの基盤となるネットワークの改善・実装

ネットワークのアクセスメントや、デジタル教科書の実証により、ネットワークのボトルネックなどの課題が可視化されるため、その課題に応じて、事業者による対処等を行い、基盤の改善を目指す

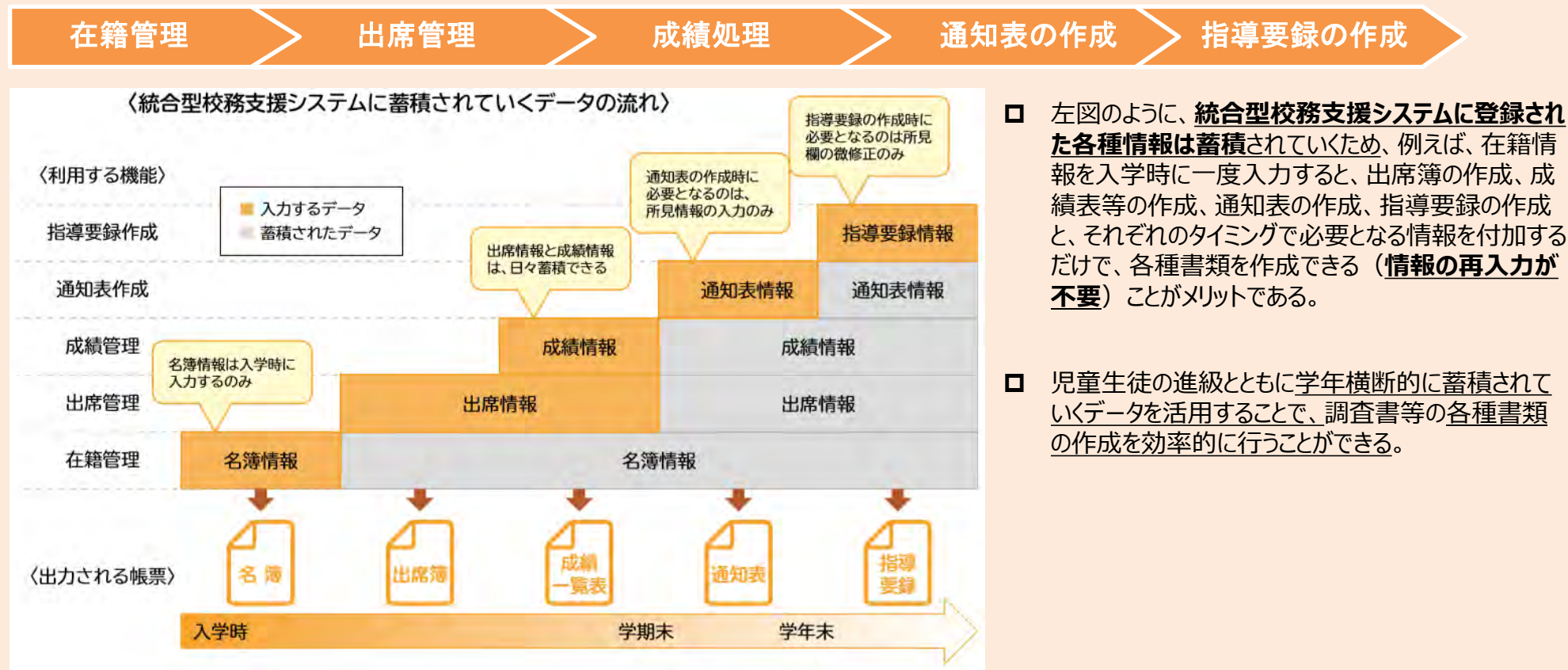
<更に次なる展開へ>

- 実証を踏まえたデジタル教科書の実装
- 全国学力調査のC B T化
- 1人1台端末から得られる教育データの利活用 等

# 統合型校務支援システムについて

- 「**統合型校務支援システム**」とは、**教務系**（成績処理、出欠管理、時数管理等）、**保健系**（健康診断票、保健室来室管理等）、**学籍系**（指導要録等）、**学校事務系**などを**統合した機能を有しているシステム**のこと
- 教職員による学校・学級運営に必要な情報、児童生徒の状況の一元管理、共有を可能とし、**「手書き」「手作業」が多い教員の業務の効率化を図る観点で有効**である。
- 小規模自治体の負担や、教員の異動等を踏まえると、教員の業務負担軽減に向けては、都道府県単位での統合型校務支援システムの導入推進が有効。

## 【統合型校務支援システムの活用例（在籍管理から指導要録の作成まで）】



□ 左図のように、**統合型校務支援システムに登録された各種情報は蓄積されていく**ため、例えば、在籍情報を入学時に一度入力すると、出席簿の作成、成績表等の作成、通知表の作成、指導要録の作成と、それぞれのタイミングで必要となる情報を付加するだけで、各種書類を作成できる（**情報の再入力が必要**）ことがメリットである。

□ 児童生徒の進級とともに**学年横断的に蓄積されていくデータを活用することで、調査書等の各種書類の作成を効率的に行うことができる。**